

2016年5月15日(日曜日)の読売新聞に 被災地応援について紹介されました

2016年(平成28年)5月15日(日曜日)

読

売

新

聞



色紙に揮毫して住民たちと交流する柿沼さん(左)(14日、仙台市青葉区で)

被災者書で励ます

矢板の柿沼さん 仙台で色紙贈る

矢板市在住の書家、柿沼翠流さん(80)は14日、東日本大震災の被災者104世帯約250人が入居する仙台市青葉区の市営落合住宅を訪れ、自治会に義援金20万円を手渡した。

東日本大震災直後から被災地支援を続ける「パン・アキモト」(那須塩原市)の活動に合わせて訪れたもので、義援金は、矢板市で今月開いたチャリティー色紙頒布会の募金の一部。集会所で柿沼さんは、集

まった住民一人ひとりに、好きな1文字や「愛」と揮毫した色紙を配り、励ました。「穏」と揮毫してもらった木村康子さん(68)は、宮城県石巻市内の旧北上川沿いのアパートで津波被害を受けた。「熊本地震の被災者の様子を見て、5年前の体験を思い出した。これからは、この色紙を見て心穏やかに過ごしたい」と話していた。

自治会の越前隆会長(76)によると入居は昨年7月に

始まった。同県気仙沼市、南三陸町、多賀城市など広範囲から集まり、入居者の半数は65歳以上だという。自治会も4月24日にできたばかりで、「みなさまからの義援金は、コミュニティづくりのために大事に使わせていただくと感謝していた。

柿沼さんは「被災者と交流し、被災地を実際に見ることができて良かった」と話した。集会所前ではパン・アキモトが揚げパンやドーナツ、さくら市で養豚から加工販売まで手がける「あさの牧場」から託されたメンチカツなどを無料で配った。